

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）事後評価調査

都道府県名	栃木県	事業実施主体	大田原市	地域再生計画名	活力みなぎる豊かな産業のまちづくり計画
計画期間	平成22年度～平成26年度	評価責任者	大田原市建設部長、大田原市産業振興部長		

①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標	基準値	中間目標値			最終目標値		事後評価	最終目標値の実現状況に関する評価			
			基準年度	年度	中間実績	基準年度	最終実績					
①地域再生計画に記載した数値目標の実現状況	指標 1	観光施設の集客力向上	17,000人	H22	-	-	-	17,850人	H27	18,176人	○	市道及び林道の整備による効果により、マイカーにより市内観光施設を訪れる人が増えて、目標を達成した。
	指標 2	拠点施設へのアクセス改善	29分	H22	-	-	-	27分	H28	28分	△	時間短縮には至ったが、目標には届かなかった。
	指標 3	医療福祉関連施設周辺のアクセス改善	11分	H22	-	-	-	11分	H28	11分	×	目標の時間短縮には至らなかった。
	指標 4	健全な森林の育成	0.0%	H22	-	-	-	3.0%	H26	4.8%	○	林道整備により、林道の利用区域において間伐などの森林整備が実施され、目標値を達成した。
	指標 5	幹線道路の相互アクセス向上	15分	H23	-	-	-	13分	H28	-	○	他事業の整備を待って、当該路線の完了となるが、達成の見込みである。
②地域再生計画に記載した数値目標以外の波及効果の実現状況	指標 1											
	指標 2											

③事業の進捗状況	事業名	整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価
		計画	中間年度(H)	最終実績	
特別措置を適用して行う事業	市道整備事業（整備延長）	12.24km	-	12.24km	今回の整備によりレジャー施設利用者の増加につながったと考えている。一方、更に交流人口の増加を図るためには、レジャー施設の滞在時間の確保や温泉宿泊施設など他の施設へのアクセス改善を図る必要があり、渋滞緩和などを旨として市道の拡幅など更に事業を行う必要がある。
	林道整備事業（整備延長）	2.3km	-	2.3km	林道整備により今まで森林施業が困難であった地域について充実した森林へのアクセス改善が図られた結果、間伐実施面積の増となった。まだ90haほど未間伐の地域が存在するため、引き続き事業実施を行いたい。
その他の事業	医療福祉産業都市構想	医療・福祉・健康関連産業や研究機関・医療機関の集積を図り、産・学・医・官の連携による様々な事業展開による地域の活性化を図る。			市、商工団体、大学、医療機関、有識者などで構成する「大田原市産学官連携推進委員会」を発足させ、産学官連携を進めるための事業計画や実施体制などについて検討した。委員会の活動の中から、企業、大学、市等の連携体である研究グループが誕生し、新事業の創出や地域の活性化をめざし調査研究、新商品開発等の検討、技術等についての情報収集活動をしている。
	観光ルートづくり事業	知の旅（歴史と文化）、癒しの旅（自然と温泉）、食の旅（特産品）をテーマとする観光ルートの構築する。			市オフィシャル観光パンフレットを発行した。三つのテーマ、知の旅（史跡、寺社、資料館）いやしの旅（公園、自然園、温泉）食の旅（飲食店、地産食品販売、農園）をキーワードに観光スポットを紹介している。その他、イベント情報や散策情報、花暦なども掲載。イラストマップがわかりやすくエリアを解説している。
	大田原市中心市街地活性化基本計画	多様な市民活動のさらなる集積と発信による賑わいの創出、「ひとにやさしい」街なか居住の推進、地域特性を踏まえた商業の振興を中心市街地活性化の目標とし推進することにより、地域の活性化を総合的に推進する。			活性化の状況は個別指標によって一長一短であるが、市民のまちづくり活動への参加人数や、ソフト事業などへの積極的な取組など、目標指標として掲げていない部分で活性化が図られたことなどから、全体的には若干の活性化が図られたと評価する。
計画外で独自に実施した事業					

④評価方法	各種事業担当課において必要なデータを収集解析して評価
-------	----------------------------

⑤事後評価の公表方法	市ホームページ
------------	---------

⑥計画全体の総合評価	本計画は、観光拠点施設（ふれあいの丘、ながわ水遊園、道の駅「那須与一の郷」、やすらぎの湯）への集客増を図ることで地域の活性化を目指した。集客率については目標を達成したが、達成できなかった施設があった。平成23年3月の東日本大震災の影響が少なからずあったと思われる。アクセス改善（時間短縮）については、達成率が25%であった。しかしながら、アンケート結果では、幹線道路及び今回整備した路線について、走行性が向上したことを裏付ける結果が出ており、僅かな時間短縮より移動時の快適性（スムーズな走行や道が広く走りやすいなど）が望まれているように思われる。また、各施設へのアクセスは、来客者のほとんどが国道を利用しており、幹線道路（国道等）へのアクセス道路整備と施設及び幹線道路への案内表示を併せて行う必要がある。また、開設した林道の利用区域面積が目標を上回る4.8%の森林整備を達成した。しかしながら、現在も整備が遅れている林道があり、地元に健全な森林を提供するとともに、災害発生時等に速やかに対応できるよう森林整備を推進していく必要がある。
------------	---

⑦今後の方針等	拠点施設での集客率の向上は、経済状況や原油価格の変動など社会情勢の変化によって、大きな影響を受ける。しかしながら、PR活動やイベント開催など施設の付加価値を上げることに加え、道路情報、施設情報や主要施設へのアクセス方法などを地図検索サイトなどへ情報提供することより、ユーザー自身で多様なルート選定ができるような環境整備をすることで、更なる拠点施設の集客率向上と大田原市への観光客誘致を目指していく。また、八溝地区の林業の振興を図るため、林道を整備し、間伐面積を拡大することにより、健全な森林を提供を目指すとともに、間伐材の利用促進も図っていく。
---------	--